



焼かないうなぎ 県漁連等水産団体長賞を受賞

株式会社天登^{あまと}ジャパンエイジング代表取締役の江口^{なおみ}尚郁さんが、11月9日に開催された「第57回水産物品評会」で県漁連等水産団体長賞を受賞し、その報告のため、1月25日(木)に東町長を表敬訪問しました。今年^{りゅうまん}は「龍鰻タキ」と「うっ皮(ポン酢で食べる鰻の皮)」のセットが、昨年受賞した「龍鰻昆布^{りゅうまんこぶじめ}」に続き、2年連続の受賞となりました。江口さんは「埼玉県からうなぎの本場鹿児島県に移住し、試行錯誤しながら若い社員たちと商品を作っています。このように自分たちの技術が評価されることは、非常に嬉しく励みになります。これからも生で食べられるうなぎの知名度を高めていきたい」と今後の更なる成長への意気込みを話されました。



栄養教室をきっかけに 食から健康づくりのコツを学ぶ

1月24日(水)、町保健センターにおいて、町保健福祉課が「栄養教室」を開き、22名が参加しました。

これは、生活習慣病の重症化予防を目的に実施しているもので、3年ぶりに開催されました。町管理栄養士が減塩するコツなどを話したあと、参加者は食生活改善推進員が調理した「出汁が違う3種類のみそ汁」と「調味料が違う3種類の和え物」を実食し、普段の食事と比較しました。

山之内典子さんは「普段から減塩に気を付けていましたが、今回お話を聞いてもっと減塩に努めたいと思いました」と話されました。



心を込めて縫った雑巾を小中学校に寄贈

大崎町シルバー人材センターが町内の小・中学校へ手づくりの雑巾を寄贈し、その贈呈式が2月13日(火)に中沖小学校においておこなわれました。

これは、同センターが地域への貢献を目的に平成23年から始めたもので、会員が不要なタオルを持ち寄り、小物作り同好会が255枚の雑巾に仕立て、各学校に寄贈しました。

贈呈式では、同好会のメンバーが「気持ちを込めて作りました。大切に使ってください」と手渡し、児童は笑顔で受け取っていました。



校歌の作詞者が講演 込められた思いに聞き入る

2月8日(木)、大崎中学校体育館において、講師に志學館大学教授の原口泉先生をお招きして「大崎中学校開校10周年記念講演会」が開催されました。原口先生は、母親が本町出身のため幼い頃からよく本町を訪れており、平成26年に統合した同校の新校歌作詞を担当されました。講演では、学生時代の思い出や歌詞に込めた思い、背景をユーモアたっぷりに紹介し、生徒は時折笑顔で講演を聞いていました。最後に全校生徒が校歌を斉唱し、原口先生は嬉しそうに歌声に耳を傾けていました。お礼の言葉を述べた2年の白山凛佳さんは「原口先生は大崎町の歴史をたくさん知ってすごかった。私ももっと大崎町について知り、校歌を大切に歌っていきたくと思います」と話してくれました。